

## 令和5年11月21日 定例記者会見

### 【質疑応答要旨】

<記者> 買い物支援について、マックスバリュと一緒に開始することとなった理由とニーズがどの程度あるか伺いたい。

<市> もともとマックスバリュ様から地域貢献を行いたいとの相談を受けており、他県での移動販売の実績があったことから本市より相談し、調整を進めていくこととなった。

ニーズについては、ふくし座談会にてどのような場所で行うべきか確認をしたところ、合計278ヶ所の希望があった。今後は、交通安全等の確認を行い、場所の選定を行っていく。

<記者> ふくし座談会の参加者はどのような方が参加していたのか。

また、今回の協定の期間、移動販売開始時期を伺いたい。

<市> ふくし座談会の参加者は、区長や民生委員、地域協議会の方、老人クラブの方、サロン関係者の方などにお集まりいただいている。

協定の期間は、一旦年度末までの協定とし、それぞれが廃止の意思がなければ、自動的に1年更新することを想定している。開始時期は、車両や人員の手配、候補地の確定等の作業後、令和6年3月末～4月頃より実施したいと考えている。

<記者> 保育現場での不適切行為が全国で相次いでいるが、小牧市でも行政指導が昨年度末から含めて2件ある。現在、保育士不足などで、労働環境が改善しないとといった問題が指摘されているのを聞いた。不適切保育が相次いでいる中で、行政として保育の質をどう担保していくのかについて市長に意見を伺いたい。

<市長> 全国的に様々な保育に関わる問題の報道等もある中で、本市においても複数件、不適切保育を確認し、指導したところである。

保育の現場において、事故や虐待が起こらないよう、しっかりと適切な指導と、研修などができるような体制を整えて

いく必要があるが、全国的にも保育士不足の中で時間の確保等が課題となっているのが現実である。個人的には、時短勤務を制度化して、保育園へ預ける時間を短くするという形ができれば保育士不足も解消し、子育ての負担も軽減できるのではと思う。労働力の確保という中で、保育園に預けたいというニーズが高まっているという状況があるので、そういった全体のことを考えた中で、今の方向性の善し悪しは難しいところだと思うが、今後の国の政策に注視していきたい。